

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

G. ガリラヤへの第二の旅

6. イエスがたとえ話を使い始めた理由 (#092)

基本テキスト: MT 13.10-17 (並行テキスト: MK 4.10-12、LK 8.9-10)

10彼らがただ一人になったとき、イエスと旅をしていた弟子たちと十二人^人がイエスのもとに来て尋ねた。「なぜ、人々にたとえ話でお話しになるのですか。」

11 イエスは答えて言われた、「天の御国の奥義に関する経験的な知識は、あなたたちには永久に与えられているが、彼らには与えられていないからである。M^{外部}にいる人々にとっては、すべてがたとえ話で表現されているのである。

12 MT」知識を持つ者はさらに与えられ、豊かになります。経験に基づく知識を持たない者は、持っている知識さえも奪われます。M^外でなければ、彼らはわたしに立ち返り、赦されるでしょう。」13 MTだから私は彼らにたとえ話で話すのです。「彼らは見ているのに見ず、聞いているのに聞こえず、理解もしない。(エレミヤ書 5:21)

14」イザヤの預言は彼らの中で実現している。

「あなたたちはいつも聞いてはいるが、決して理解することはないだろう。

あなたは常に見ているが、決して認識することはない。

15この民の心は鈍くなっている。

彼らは耳がほとんど聞こえず、目も閉じています。

そうでなければ、彼らは目で見、耳で聞いて、

彼らの心を理解し、立ち返らせなさい。そうすれば、わたしは彼らを癒すであろう。(イザヤ書 6章9-10節)

16しかし、あなたがたの目は見ており、あなたがたの耳は聞いているから、幸いです。17よく聞きなさい。多くの預言者や義人も、あなたがたが見ているものを見たいと切望したが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたいと切望したが、聞けなかったのです。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤのどこか、ガリラヤ湖近くの家で
タイムライン	5月（16番目の月）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	G. 第2回ガリラヤ巡礼
タイトル	6. イエスがたとえ話を使い始めた理由

コメント：

の朗読では、たとえ話がイエスの宣教において、私たちが考えるよりも異なる役割と目的を持っていたことが分かります。私たちは、この第二回ガリラヤ巡回旅行の冒頭で、このことを初めて指摘しました。たとえ話はイエスの教えの重要な部分を占めていたため、ここで少し時間を取って、たとえ話が意図した役割についてさらに深く考察したいと思います。

イエスは史上最も偉大なコミュニケーションの達人でした。それは疑いようありません。そして、彼のたとえ話は、現代においても、そしてどの時代においても、記憶に残る物語として、今もなお語り継がれています。しかし、たとえ話はイエス自身にとっても、弟子たちにとっても、好ましいコミュニケーションの方法ではありませんでした。

イエスは宣教の初めから譬え話で語られなかったことを思い出してください。この場面で初めて譬え話を用い始めたとき、弟子たちは驚き、なぜそうするのか理解できませんでした。イエスと二人きりになるとすぐに、彼らは尋ねました。「なぜ人々に譬え話で語るのですか？」彼らには全く理解できませんでした。では、なぜイエスは群衆に語りかける際に、直接的な説教ではなく譬え話を用いるようになったのでしょうか。

ここでは文脈が極めて重要です。パリサイ人たちは、イエスが悪霊に取り憑かれ、悪魔の力で説教していると公然と非難したばかりでした。彼らは、イエスが彼らの前で奇跡を起こした直後、悪魔自身の仕業だと非難し、イエスがメシアであることを証明するための「しるし」を求めました。律法学者とパリサイ人たちは、大勢の群衆の中をイエスが二度目のガリラヤ巡礼に訪れた際、イエスに付き従い、人々の間にイエスに対する混乱と疑念を煽っていました。彼らは世論をイエスに不利な方向に転じさせようとしていたのです。その直前、イエスが正気を失ったのではないかと恐れ、母と兄弟たちがイエスを家に連れて帰るためにやって来たことは、パリサイ人による中傷的な非難が人々にどれほどの影響を与えたかを如実に物語っています。

あなたを憎み、あなたが悪魔の代理人であると信じている宗教的な人々と話をしようとしたことがありますか？

そのような人々は、あなたが何を言っても、心を開いて耳を傾けようとしません。これはまさに、イエスが弟子の質問に対する答えの中で述べたことです。イザヤは、耳に音を聞いても、その意味を心で理解できな

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

い人々について預言しました。まさにユダヤ人の指導者たちが行っていたことです。群衆も同じようにし始めていました。そこでイエスはプランBに切り替え、メッセージを間接的に伝える物語を通して語り始めました。

たとえ話は、イエスの話を聞き手が物語の中で果たす役割を通して語りかける、短く印象に残る物語でした。それぞれのたとえ話には、イエスの話を聞き手に直結する重要な点が一つあり、彼らは物語の最後に、実は自分たちのことなのだと気づきます。物語の終わりに（時には物語の途中で）、聞き手は突然「ああ！彼は実は自分のことを話しているんだ！」と気づくはずで、優れたたとえ話は、力強い要点を、興味深く、間接的な方法で伝えます。

ですから、たとえ話を通してイエスは敵に直接語りかけることなく、敵に語りかけ、また敵を攻撃することができました。それは巧妙な暗号化されたコミュニケーション手段であり、敵対的な状況においてイエスが唯一得ることができた聞き手でした。イエスは状況に応じてたとえ話をうい始めましたが、説教や教えにおいてそれがイエスの好む方法ではありませんでした。

これらの「要点」を述べたたとえ話は、信者ではない人々、つまりイエスとの交わりの外にいる人々のために特別に用意されたものでした。イエスは弟子たちと直接語り合いながら、たとえ話を個人的に説明し続け、たとえ話を使わずに彼らに語りかけました。

たとえ話と物語の解説には違いがあることにも注目すべきです。イエスは語る際に、常に様々な例え話を用いられました。これらの例え話は、イエスが言葉で同時に表現していた考えを、生き生きとした視覚的、あるいは論理的な表現で示しました。あらゆる例え話はそうであり、イエスは例え話の使い手でした。たとえ話は、ある要点を他の方法で述べることなく、聞き手に理解してもらうために語られた物語です。例え話は、伝えようとしている別の要点を説明するものであり、コミュニケーションにおいて単独で成立するものではありません。一方、たとえ話は思考の単位として単独で成立し、独自の主張を展開します。

イエスは朗読の最後に、弟子たちが受けた計り知れない祝福について語られました。それは、イエスが言葉と行いによってご自身を現された時、弟子たちが直接イエスを聞き、見ていたからです。弟子たちはたとえ話を必要としませんでした。なぜなら、彼らはイエスの個人的な教えと知識の中にいたからです。メシアに関するこの個人的な知識は、旧約の時代に生きたすべての預言者と神を求める信者たちが切望しながらも、決して経験できなかったものでした。

福音書に記されているように、私たちはイエスを通して知識と啓示を受けています。それは、モーセ、ダビデ、イザヤ、エリヤ、エレミヤが知り得たこと、想像することさえできなかったことをはるかに超えるものです。これが、新しい契約における「最も小さい」弟子が、古い契約における最も偉大な聖徒たちよりもはるかに多くのものを持っているもう一つの理由です。私たちは信じられないほど祝福されています。

応用：

イエスはたとえ話を用いて敵にメッセージを伝え続けた点で、聡明で勇敢でした。ここでイエスの無条件の愛が輝いています。イエスは彼らを見捨て、誰ともそれ以上話さないこともできたでしょう。それは十分に正当化されたでしょう。しかしイエスは、彼らがイエスとイエスのメッセージに対してどれほど強い憤りを抱いているかを知っていたにもかかわらず、メッセージを伝え続けることを選ばれました。なんと素晴らしい愛でしょう。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

私たちも、良い知らせを聞こうとしない人々に伝えることを諦めてはなりません。たとえ彼らが以前に拒絶したために、再び聞く資格を失ったとしても、彼らがメッセージを理解し、反応できるよう、あらゆる努力を惜しまなければなりません。これこそが神の愛であり、私たちもそうあるべきです。

誰かを諦め、イエスのメッセージを伝えるのをやめてしまった人はいませんか？どうすれば神の愛をもって彼らに手を差し伸べ続けることができますか？